

Brush Up Letter

2019年7月
Vol.28

D&Nplus ブラッシュアップセンターは、妊娠期から職場復帰、子育て期・介護期の医療職者をサポートします

Contents

- 平成 31 年度 新規採用職員合同研修
- Dr. キャリアカフェ 第 10 回メンター・メンティーの会
- Dr. キャリアカフェ 第 21 回ママドクカフェ
- みなと KOBE メディカルキャリアプロジェクト第 3 回講演会
- 看護師キャリアカフェ

平成 31 年度 新規採用職員合同研修

日 時 4 月 1 日 (月) 9:00-17:00

会 場 シスメックスホール

新規採用者 360 名を迎え合同研修が開催されました。平田健一病院長の祝辞後、病院内の各部署によるガイダンスが行われ、D&Nplus ブラッシュアップセンター長の中村誠副病院長（眼科学教授）から取組概要の説明がありました。今後、妊娠・育児や介護等のライフイベントに直面した際は、ブラッシュアップセンターにお気軽にご相談ください。

Dr. キャリアカフェ 第 10 回メンター・メンティーの会

日 時 5 月 28 日 (火) 12:00-13:00

会 場 共通カンファレンスルーム

メンター・メンティーの会は、医師としての将来への不安やプライベートに関することなどを率直に質問できる機会でした。

今後は、より多くの方々に参加していただくために充実した内容で「新企画」を検討していますので、ご期待ください。



Dr. キャリアカフェ 第 21 回ママドクカフェ

日 時 6 月 12 日 (火) 12:00-13:00

会 場 共通カンファレンスルーム

講 師 石田 苑子先生 (食道胃腸外科)

テーマ 次世代の外科医のあり方
～ママでもパパでも～



神戸大学医学部 2 回生で外科医を志し、4 回生で結婚、5 回生で長女出産、研修医時代に長男出産、現在は大学院生。肝胆膵外科医の夫と 2 人のお子さんの 4 人家族。家事・育児をこなし仕事と研究を同時進行する秘訣についてお話いただきました。

以下、石田先生の講演内容の一部をご紹介します。

夫婦それぞれのキャリアステージに合わせて家庭の主導権を交代。夫が大学院生の間は夫がメインで家事・育児を行い、当直免除などをして男性でも家庭優先の生活を実現させた。夫もその期間を通して家事・育児スキルが飛躍的に向上した。

【家事について】家電を駆使して家事の効率化を目指し、子供も自主的に整理整頓できるような部屋作りをした。食材の宅配サービスやシルバー人材を活用して、さらに家事時間を削減。

【育児について】院内保育所を利用して職場復帰をし、病児保育、24 時間保育所にも登録。小学生以降は学童保育、ファミリーサポートセンター、ベビーシッターを利用。保育所を通してママ友・パパ友と出会い、互いに習い事の送り迎えなどで協力し合っている。

【仕事について】出産後のキャリアアップは、専門医取得などの目標を持つことでモチベーションを維持。上司と研修方法を相談し、日中に効率よく研修を行えるように工夫してもらった。託児付きの手術手技講習会などに参加して、研鑽を継続。医局や指導者とコミュニケーションを密に取り、一緒に頑張ろうと思えることが大切である。

今回は 30 名の方がご参加くださいました。アンケートには

- ・具体的・現実的なお話で勉強になりました。
 - ・同期の頑張りが励みになりました。
 - ・石田先生の元気に驚きました。
 - ・学生時代から人生設計を考え素晴らしい。
 - ・パパ側の取組を聞きたいです。
- などのご意見をいただきました。

みなと KOBE メディカルキャリアプロジェクト第3回講演会

日時 7月6日(土) 14:00-17:00

会場 神緑会館 多目的室



講演1

テーマ 多様な働き方への取組

講師 神戸大学医学部附属病院 循環器内科
講師 田中 秀和 先生

医療はチームプレイ。多様なバックグラウンドを持つ医師同士、それぞれに理解し助け合うことが、結果的に良い診療や研究につながる。中でも子育て中の女性医師が時短勤務による引け目や不安を感じないよう配慮が不可欠。同時に共働きの男性医師が休まざるを得ない状況になったときのために日ごろからサポート体制を整えておくことが重要。この姿勢はアメリカ留学がきっかけとなった。男性が率先して家事や育児を担い、「家族が一番大切」という上司のお陰で周りに配慮すれば必ず自分に返ってくることを学んだ。その感謝の気持ちから良いチームワークが成り立つと思っている。



講演3

テーマ ストレスの神経科学とともに歩む

講師 奈良県立医科大学 第一解剖学講座
教授 西 真弓 先生

薬学部卒後の就職先では、海外経験者が多く、最先端の研究やセミナーに触れることが非常に刺激的だった。この経験から医師への志が高まり、夫の後押しもあって医学部へ進学した。がんの研究を望むが次第に解剖学・神経の講座が魅力的だったこともあり強く興味を持つようになった。卒後は麻酔科へ入局、大学院でのステロイドホルモンとセロトニンの研究を経て、ストレスの神経科学を研究した。単位互換制度を利用してニューヨーク大学へ単身で留学し、帰国後、研究に没頭。解剖の実習を通して、基礎医学教育の重要性について学ぶことができた。人生においては多様な生き方があり、私自身は回り道もしたが、悪くないと思っている。苦労もあるが、ポストドクを増やし研究を発展させ、研究費獲得に成果を出している。研究とは人との出会い、つながりが大切であることを痛感し、全てにおいて感謝している。

看護師キャリアカフェ

日時 7月22日(月) 18:15-18:45

会場 共通カンファレンスルーム

今回は、ラダーIII「中堅看護師のためのキャリアデザイン」研修とのコラボレーション企画でした。まずは講義で“キャリアデザイン”を学び、自分のキャリアを振り返りキャリアアンカーを確認するワークを行いました。その後のキャリアカフェでは、コーヒーやお茶を飲みながら副看護師長やCNの方々にこれまでの歩みを語っていただきました。素朴な疑問等の相談時間もあり何かと忙しい日々の中で、改めて自分のキャリアと向き合う良い機会となりました。看護実践・教育開発センター 野村悦子

梅雨晴れの一日、第3回講演会が開催されました。会長の尾藤祐子先生(小児外科)の開会挨拶でスタートし、3名の講師による講演会や座談会、和やかな懇親会と続けました。以下、講演内容と座談会の一部をご紹介します。



講演2

テーマ 多様な働き方への取組

講師 神戸大学院 科学技術イノベーション研究科
教授 島 扶美 先生

研修医時代、家事・育児にモチベーションが上がらず臨床・研究に向き合えないことがあった。そんなとき「どうにもならない時こそ、やりたいことが見えることもある。思いつくことを、ひとつずつやってみたら」と助言を受け「なるようにしかならない。今できることを、いい加減でも、それでもやっていたら前に進める」ことを実感した。若手にはキャリアアップだけを目的とするのではなく、幸せになるためにキャリアを形成してもらいたいと思う。自分のキャリアを通じて参考になればと願っている。



座談会 左から

- ・高橋 路子先生 (栄養管理部・糖尿病内分泌内科)
- ・尾藤 祐子先生 (小児外科)
- ・西 真弓先生 (奈良県立医科大学)
- ・島 扶美先生 (科学技術イノベーション研究科)
- ・塩見 優紀先生 (消化器内科)

高橋路子先生の進行により「多様性のある働き方」についてご意見を伺いました。その一部をご紹介します。

- ・一人ひとりに活躍してもらえるような環境づくりを心掛けています。仕事は性別でなく、出来ることを出来る人がやれば良い。お互いにサポートし合うことが大切である。
- ・結婚・出産後のキャリアが積みにくいと思っている。女性医師のキャリア形成のためにも周囲の意識が変わり、対象者へ配慮することが必要だと思う。
- ・女性のトップが少なく、男性社会の中で息苦しさを感ずる。
- ・日本では、女性の教授やトップの数が明らかに少ない。ダイバーシティの考えが進まないのは「男性が変わらない」からか。



講演会の様子



懇親会の様子



【編集・発行】

神戸大学医学部附属病院 D&Nplus ブラッシュアップセンター
〒652-0032 神戸市兵庫区荒田町2丁目1-5 地域医療活性化センター1階
TEL : 078-382-5266 FAX : 078-382-5837

E-mail : brushup@med.kobe-u.ac.jp HP : <http://www.hosp.kobe-u.ac.jp/dn/>